

平成 28 年度
学会等開催助成報告

第43回日本毒性学会学術年会

衛生薬学講座 佐藤 雅彦

一般社団法人 日本毒性学会では、毎年学術年会を開催し、医薬品をはじめ、食品添加物、農薬、工業薬品、環境化学物質、金属、化粧品、天然物質などの化学物質



の毒性研究に関わる広範な領域の発展並びに社会的貢献を図っている。2016年の第43回日本毒性学会学術年会は、愛知学院大学薬学部衛生薬学講座の佐藤雅彦教授が年会長を勤め、名古屋〔ウインクあいち（愛知県産業労働センター）〕で開催された。

本年会は、恒例の年会長招待講演をはじめ、4つの特別講演、4つの教育講演、21のシンポジウム、6つのワークショップ、就職活動支援プログラムなどで構成された。一般研究発表では、優秀研究発表賞応募53演題、一般口演52演題、ポスター発表270件（優秀研究発表賞応募53件を含む）が行われた。参加者も1,500名を超え、盛会のうちに終えることができた。特に今回は、日本毒性学



会35周年記念特別企画「学会の生い立ちと未来展望」と題した6つの講演で、歴代の理事長・年会長らの話をまとめて聞くことができる機会もあった。

また、年会期間中には、毒性学領域で優れた学術活動をしてきた研究者を対象として、特別賞、学会賞、奨励賞、田邊賞、ファイザー賞、技術賞、望月賞および日化協LRI賞の授賞式が行われた。さらに、特別賞、学会賞および奨励賞受賞者の受賞講演もあり、多くの参加者が本分野の先駆的研究内容に接する機会となった。

本年会では、79社の企業展示や、企業主催のランチオンセミナー18件が行われるとともに、国立医薬品食品衛生研究所などの政府機関からも多数の関係者が参加し、産・学・官の連携を基盤として、円滑な相互情報交換を通して各機関の発展につながる機会となった。



今回の学術年会のテーマは、「健康増進に貢献する毒性学」である。我々は、様々な化学物質に囲まれて生活おり、その中で、個々の化学物質の安全性だけでなく、それらの相互作用・複合影響も含めた安全性を正確に評価する必要がある。したがって、毒性学は、我々の健康を増進させるため、予防医学・予防薬学においても欠かせない学問分野である。本年会では、上述した新たな毒性学の学問的、なおかつ社会的意義が確立され、そこに学術的成果を残したと言える。

本年会のシンポジウムは、「酸化ストレスとシグナル



伝達」「日米毒性学会の交流促進プログラム－肺毒性の最前線－」「SEND（非臨床試験電子データ標準化）－その規制動向と実装に向けた企業、CRO、ITベンダーの取り組み－」「微量遺伝毒性物質の食品健康影響評価について」「医薬品に係わる添加物と剤型革新における安全性評価」「次世代研究セミナー：新規アプローチによる毒性発現機序解明とバイオマーカー探索」「安全性評価におけるイヌ慢性毒性試験とマウス発がん性試験の有効性」「メチル水銀毒性研究の最前線」「マイクロミニピッグを用いる医薬品の安全性評価」「ナノマテリアルの実用化に呼応した有毒性評価の進捗」「バイオ医薬品の品質および不純物管理に係わる安全性評価：現状と未来」「エピジェネティック毒性評価に向けたバイオマーカー探索とその関連研究の動向」「オルガネラトキシコロジー」「適応拡大する毒性オミクス」「日本毒性病理学会合同シンポジウム：腎臓の毒性病理とバイオマーカー」「UGT研究の最前線～食品から医薬品、動物からヒトまで～」「再生医療・細胞治療の品質・安全性評価のあり方－患者様のリスク最小化に向けたアプローチ－」「日本中毒学会合同シンポジウム：一酸化炭素中毒の最前線：シグナル伝達物質としてのCOと中毒・後遺症の再考察」「カドミウム研究の新たな展開－疫学から分子機構まで－」「遺伝毒性の逆襲：遺伝毒性試験から発がん性と発がんリスクを予測する」「心循環器毒性－非臨床から臨



床へ、臨床からのフィードバック」と幅広い話題で構成され、各分野での専門家による活発な討論が行われた。

ワークショップでは、「認定トキシコロジスト制度－これまで、現在、これから－」「ICH S1がん原性試験ガイドライン改定に係る前向き調査におけるがん原性評価文書（CAD）の中間評価と薬理作用及び標的臓器からみた発がん」「ネオニコチノイド研究とリスク評価の最前線～ミツバチからヒトの社会まで～」「医薬品リスクのコミュニケーション」「医薬品開発における探索安全性評価の戦略について」「経済産業省プロジェクト 新規反復投与毒性試験代替法の開発：ARCH-Tox」の話題で、今後の毒性学分野の発展につながる最新の研究課題に関する討議が行われた。

とくに、SENDに関するシンポジウムや、バイオ医薬品やiPS細胞など、新しいタイプの医薬品や医療の安全性に関する最新動向に大きな関心が持たれるなど、本年会のすべての内容が毒性学分野の発展に貢献できたと思われる。



最後に、本年会の運営に当たって、会場スタッフとして手伝っていただいた愛知学院大学薬学部の教員並びに大学院生、学部生に謝意を申し上げたい。また、本年会へ過分なる助成金を贈呈していただいた愛知学院大学薬学会に年会事務局一同深甚なる謝意を表したい。



【第43回日本毒性学会学術年会】

1. 年会長

佐藤 雅彦（愛知学院大学 薬学部 教授）

2. 会 期

2016年6月29日（水）～7月1日（金）

（第14回市民公開セミナー：7月2日（土））

3. 会 場

ウインクあいち

（愛知県産業労働センター）

4. 特別企画

日本毒性学会35周年記念特別企画：1

年会長招待講演：1

特別講演：4

教育講演：4

シンポジウム：21

ワークショップ：6

就職活動支援プログラム：1

市民公開セミナー：1

5. 一般演題

口 演：52 題

ポスター：270 題

（うち優秀研究発表賞応募演題53 題）

6. 参加者数

年会：1,585 名（招待者含む）

市民公開セミナー：87 名

懇親会：560 名（招待者含む）

7. 協賛・年会助成

企業（団体）展示：79 社・団体

ランチョンセミナー：18 セミナー

広告掲載（要旨集、市民公開セミナーパンフレット、

ホームページ）：34 社・団体

協賛企業・団体：12 社・団体

8. 第43回学術年会事務局

事務局長 李 辰竜

事務局次長 徳本 真紀

（愛知学院大学 薬学部 衛生薬学講座）